



佐保姫の繰る歌枕歌ことば
花前線巨船のやうに北上す
分流し合流し身を巡る血のおぼろ
涅槃図の余白は民の嘆く場所
一途なる女は脆し濃山吹
木の根開く太宰治の通信簿
日に透けて白木蓮の天女咲き
両腕の作る大丸合格子
木琴の音は樹の声のどかなり
黒潮の荒砥びかりや菜の花忌
蜃気楼海へ混み出す人と影
顔上げて生きよと風の朴芽吹く
まんさくや目覚の光こまやかに
啓蟄や錠剤のあな整列し
春燈や三面鏡にある無限

矢崎すみ子
宮坂 恒子
辻 美奈子
千田 百里
荒井千佐代
塙 誠一郎
細川 洋子
宮内とし子
七種 年男
大沢美智子
甲州 千草
内山 花葉
田所 節子
栗原 公子
菊川 俊朗

本文と凡例行き来して朧
三月の光突き合ひフェンシング
喜びに少しの狂気花ミモザ
総帆を展ぐや佐保姫の御成り
鬼よりも恐ろしき人豆を打つ
啓蟄や豆煎餅に豆の穴
白神の雪解の水の猛猛し
雪解けて国境開く山河かな
草青む杭のやうなる牛の脚
日時計の時の切つ先風光る
きさらぎの和紙の表紙の袖珍本
永き日や螺旋の果ての駐車場
冬晴の富士は完璧過ぎないか
立春立志青年となる一日
老境に入るとふことの煮凝れり

井原 美鳥
道端 齊
平松うさぎ
小林 陽子
中村 重幸
和田 満水
木村あさ子
阿部眞佐朗
大橋 松枝
森村 江風
栗坪 和子
本池美佐子
水谷 昭代
澤田 英紀
関 妙子

